

シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」(3) — 歌手とピアニストの為の演奏と解釈 —

野々垣 文 成

7. 焦 燥

形式は4つの詩節による有節形式によって歌われる。この歌曲集「美しき水車小屋の娘」全20曲中、完全な有節歌曲は8曲である。又有節歌曲の部類に含まれる曲も2曲あるので全歌曲集中半分は有節歌曲であると解釈できる。この10曲の有節歌曲の存在がこの歌曲集を演奏する歌手やピアニストを苦しめる最大の原因となっている。歌手にとっては複雑なドイツ語の詩句の暗譜に通作形式の歌曲の何倍もの労力を注がなければならない。もちろんドイツ語を母国語としている人々も同様である。しかもテンポの速い歌曲になればなるほど苦しみは増すのである。ピアニストについては複数回同じ音楽を繰り返す事の苦難さである。複数回詩句の内容によって音楽を引き分けるのであるから至難である。素人的な感じでは譜読みの負担が軽く楽に思われがちである。これは「美しき水車小屋の娘」の難易度の一部であるのだが。それでは「焦燥」の演奏と解釈について記すことにしよう。突然のせきこんだすぎましい3連譜のピアノパートの始まりである。第6曲「わけを知りたがる者」の次曲としてはあまりにも唐突の感じがするであろう。しかし前曲の内容を受けて若者の心が一度に高揚したのである。誰にも打ち明けられない若者の激しい情熱にわき立つ青春の焦燥を印象的に又劇的に表現している美しい歌である。速度表示は *Etwas geschwind* [少し速く] であるが、この速度表示に関してはそのまま受け取ることは問題がある。[少し速く] といってもずいぶん速さの範囲がある。つまり歌手の音域によって左右されてくる。テノールであればより速めであるだろうし、バリトン、バスであればより遅めであるだろう。つまり歌手の個人差にもよるのである。そして後述するが問題はさらに別にある。つまりテンポは ♩ = 108~116 前後がよいであろう。ピアノの前奏部分について考えてみよう。

若者のあせる心をよく表現しているのだがピアニストにとってはかなり負担な部分であろう。〔譜例1〕まず右手の3連音譜の弾き方である。第1小節から第8小節まで休みなく続いている。しかも強弱記号は *P* である。多くのピアニストは強弱を無視してかなり強めに弾きだしていると思われる。右手は若者の高鳴る胸の動悸である。左手は若者の胸の思いを表現しているメロディーが表れている。この左手のメロディーが演奏上やっかいなのである。左右の手は別の性格を表現する事がピアニストの義務であろう。しかし強弱記号の *P* は必ず守らねばならない。この前奏部は > (アクセント) が5箇所ある。(○印) このアクセントの箇所て腕の重みを自然な形で落とし次のアクセントまでその落ちた力で弾くのである。右手については第2小節の3拍目のところで小さなクレッシェンドをかけ、第3小節の1拍目の最初の音符はテヌート気味に演奏したい。この2つの関係は相互に影響を与え合っているのでピアニストの音楽性とセンスによって処理されなければならない。(クレッシェンド部分 <) (テヌート) そしてこの小さなクレッシェンドは左手の第2小節目のメロディーを受けていることを忘れてはならない。左手のメロディーに関してもう一つ述べておこう。第3小節の2拍目の裏拍は8分音符である。(△印) 本来なら第1、4、6小節の3拍目の3連音符の最後の8分音符と同じ扱いであろう。もしシューベルトが同じ扱いで作曲していても、何ら音楽に影響を与えないであろう。しかしこの8分音符は若者の心の躊躇を表している。この小さなフレーズはレガートに演奏し、前後の快活なメロディーとは異に演奏したい。そうすれば若者の心の機微はナイーブに表現されるであろう。この躊躇さがこの前奏をさらに印象深いものにしてている。このピアノパートの前奏部分は若者の心の動揺とそれに相反する青春の喜びに満ちた興奮を表現してい

るのだがそれ故音楽は不安定で均衡を欠いている。そして歌声部とは又違った意味でこの曲全体を支配している。歌声部については4節あるが強弱の支持は全てPである。楽譜に忠実に演奏すれば4節共にPで歌うのであるがPの中で変化を付けるのは至難であろう。しかしもし歌手の実力が最高であればこのかぎりではない。一般的な歌手については多少の変化を付けても許されるであろう。第1節は激しく歌う方が望ましい。第2節は情熱的に、ただし‘einen jungen Star’（一羽のむくどりの雛）の部分だけは柔らかい表現で歌いたい。第3節はさわやかな朝の風のようにすがすがしく優しく歌いたい。第4節は内的表現を用い今までの第1～第3節までとは違い若者の青春の苦悩の一端をも覗かせるとよいであろう。第4節の‘und sie merkt nichts’（彼女は気が付いてくれない）の部分は言葉の強調が必要であろう。声の質を少し暗く苦悩をあらわにテヌート気味に演奏することをすすめる。この4つの解釈からすれば当然全ての節をPで歌い通すのは困難である。おのずと各節によって強弱の差が出てくる。これは演奏者と聴衆にとっても甘受しなればならない。人の感情は感情移入することによって強弱、テンポ共に揺れる事は万人が理解できるし、それが人間らしさということにつながって行くのである。あくまで器械的な演奏は避けなければならない。各節の後半部分で出てくる‘Dein ist mein Herz und soll es ewig bleiben!’（ぼくの心はいつまでも君のもの！）はそれぞれの節の内容に合わせて歌い分けなければならないし、前半を歌い分けていれば自然にそれぞれの節に合った歌い方になるであろう。これこそが“演奏と解釈”になるわけである。各節の後半部分についてのテクニク的な注意を記しておこう。〔譜例2〕早口言葉の前半部分が歌い終わった直後の急激な変化は歌手にとって大いに不安を駆り立てられる。この後半部分をうまく歌うためにはまず前半部分をしっかりと支えを持って声帯を引っ張り緊張状態を保ちながら体制を崩さずにドイツ語を重点的に喋るように歌うのである。ここで喋るということが又別の問題を発生させる。つまり歌手がどの程度ドイツ語に精通しているかということである。詩の内容は当然であるがドイツ語のイントネーション

がいかに正確であるかという必要性がある。前半をこのように歌うことが出来れば後半はそのままの体制で歌い続けられればよい。音楽は矢印の方向に持っていく、第20小節目の音符は〔譜例3〕のように3拍一杯歌ってしまうのではなく最後に8分休符をとる。それは第21小節のさらに盛り上がっていくフレーズの為の準備でもある。音を伸ばしている間は声帯を下に引いて力を入れず固定し安定させる。(◎印)の箇所では音符以上に長く歌いがちなので音符を正確にテンポ内で演奏すること。歌手の多くはたっぷり歌い大幅に遅れてしまう。又オペラではないので必要以外の大声で歌ってはいけぬ。又声を押す事は厳禁である。あくまでドイツリートであることを忘れてはならないし、理性を失ってはいけぬ。ブレスは〔譜例4〕のようにする。第21～23小節までノン・ブレスで歌うので歌手のKopfstimme（頭声）の状態と呼吸、支えによっていかによい成果を出すかが決定する。ピアノの後奏は曲全体の内容を一手に引受けて決然と弾き切って終わる。〔譜例5〕後奏は第3拍目に装飾音が付いている楽譜の方がオリジナルであろう。なぜなら歌声部の最後のフレーズによるものである。〔譜例6〕「焦燥」には大きな問題がある。これは「焦燥」に限らずシューベルトの歌曲では常に起こる問題である。シューベルトの歌曲を歌う演奏家にとって決して避けて通ることは出来ないのである。以前、歌曲集「冬の旅」の演奏と解釈でも取り上げている。メロディーパートが符点音符で書かれピアノパートは3連符で書かれている場合である。この場合は〔譜例7〕その歌曲の速度と歌曲内容によって演奏方法を決めなければならない。速いテンポに属する曲は、この「焦燥」も含めてメロディーパートをピアノパートに合わせ3連音符で歌うことが通常であると考えてもよい。〔譜例8〕テンポの速い曲は歌手が全身全霊をかけて歌ってもドイツ語の発音の壁に阻まれる。しかもドイツ語の発音は明瞭で細部まで聞き取れなければならない。正確に符点音符で演奏することは不可能であろう。これはあくまで慣例で規則ではないことを承知しておきたい。では遅いテンポの曲に関してはどうであろう。ここで例を上げてみよう。シューベルトの作品中でこの種の問題で常に演奏家の悩みの種となってい

る曲は歌曲集「冬の旅」第 6 曲「あふれる涙」である。この曲の場合はメロディーパートとピアノパートが逆になっているが問題点は共通している。〔譜例 9〕この場合は 3 連音符と符点音符はずれて演奏しなければならない。この微妙なずれが涙の落ちる情感をかもしだしているのである。もち

ろんピアノパートの 16 分音符は柔らかに、弱めに演奏しなければならない。もちろんはっきりと、強く演奏すれば全てを台無しにしてしまうのは明白のことである。この他にもいろいろな参考になる作品はあるがその都度ふれることにしよう。

〔譜例 1〕

The musical score for Example 1 is written in 3/4 time with a key signature of two sharps (D major). It consists of three systems of two staves each (treble and bass clef). The first system (measures 1-3) features a piano part with triplets and a melody with a fermata. The second system (measures 4-6) continues the piano part with triplets and the melody. The third system (measures 7-8) shows the piano part with chords and the melody with a fermata. Dynamics include 'p' and 'fp'. There are various performance markings like slurs, accents, and fermatas.

シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」(3)

[譜例 2]

Dein ist mein Herz, dein ist mein Herz und soll es e - - - wig, e - - - wig, blei - - - ben!

Detailed description: This is a vocal line in G major, 3/4 time. It consists of six measures. Measures 19-21: "Dein ist mein Herz, dein ist mein". Measures 22-24: "Herz und soll es e - - - wig, e - - - wig". Measures 25-26: "blei - - - ben!". There are circled 'C' symbols above measures 19, 20, and 22. A slur covers measures 23 and 24. Measure 26 ends with a fermata.

[譜例 3]

Dein ist mein Herz,

Detailed description: This is a vocal line in G major, 3/4 time, consisting of two measures. Measure 19: "Dein". Measure 20: "ist mein Herz,". A slur covers the end of measure 20.

[譜例 4]

Herz und soll es e - - - wig, e - - - wig, blei - - - ben!

Detailed description: This is a vocal line in G major, 3/4 time, consisting of five measures. Measures 22-24: "Herz und soll es e - - - wig, e - - - wig". Measures 25-26: "blei - - - ben!". A slur covers measures 23 and 24. A fermata is placed above measure 24. A 'V' symbol is above measure 24.

[譜例 5]

Detailed description: This is a piano accompaniment in G major, 3/4 time, consisting of two measures. Measure 26: Treble clef has a series of chords (F#4, A4, C#5, F#4); Bass clef has a series of chords (G2, B2, D3, G2). Measure 27: Treble clef has a series of chords (F#4, A4, C#5, F#4); Bass clef has a series of chords (G2, B2, D3, G2). A fermata is placed above measure 27.

[譜例 6]

Detailed description: This is a piano accompaniment in G major, 3/4 time, consisting of two measures. Measure 26: Treble clef has a series of chords (F#4, A4, C#5, F#4); Bass clef has a series of chords (G2, B2, D3, G2). Measure 27: Treble clef has a series of chords (F#4, A4, C#5, F#4); Bass clef has a series of chords (G2, B2, D3, G2). A fermata is placed above measure 27.

[譜例 7]

8 9 10

1. Ich schnitt' es gern in al - le Rin - den ein, ich
 2. Ich möcht mir zie - hen ei - nen jun - gen Star, bis
 3. Den Mor - gen - win - den möcht ich's hau - chen ein, ich
 4. Ich meint, es müßt in mei - nen Au - gen stehn, auf

[譜例 8]

8 9 10

1. Ich schnitt' es gern in al - le Rin - den ein, ich
 2. Ich möcht mir zie - hen ei - nen jun - gen Star, bis
 3. Den Mor - gen - win - den möcht ich's hau - chen ein, ich
 4. Ich meint, es müßt in mei - nen Au - gen stehn, auf

[譜例 9]

3 3

Man - che Trän aus mei - nen Au - gen
 Schnee, du weißt von mei - nem Seh - nen:

8. 朝の挨拶

ドイツの乾燥した清々しい朝をこのピアノパートの導入が十二分に表現している。なんと美しいメロディーであろうか!〔譜例1〕曲は4節の単純素朴な有節形式である。速度表示は *Mäßig* (ほどよい速さで) となっている。♩ = 72 位がよいであろう。この4節からなる旋律は前半がレツィタティーフ調(喋り)であり後半はメロディックな旋律をピアノパートと共にカノンで奏でている。このような構成のうえ4節を歌い分け、弾き分けていくのである。この導入のメロディー〔譜例1〕をピアニストがいかに弾くかでこの第8曲「朝の挨拶」の存在感が確定するのである。ピアニストは十分に腕の力を抜いて響きのみで明るい薄く輝く音色で何のためらいもなく弾きだす。4小節を2つに分け問いと答えのように弾き分ける。これを1フレーズで弾くことはありえない。ピアノパートの前半部分では(――①――)若者の水車小屋の娘に対する朝の挨拶である。後半部分のフレーズはあたかも水車小屋の娘が若者の挨拶に心地よく答えているようである。(――②――)しかし内容は若者の意に反するように進んでいく。後半部分のフレーズではふたとおりの弾き方がある。〔譜例1〕〔譜例2〕オリジナルは〔譜例1〕であると考えられる。しかし〔譜例2〕もシューベルト自身の自筆譜のコピーにひとつにあるようである。第3小節目の各拍は *Schwer・Leicht* (重く・軽く)を付け、強拍は落ちる力で、裏拍は自重で跳ね上がる力を利用して自然に切る。そしてこの第3小節をひとつの方向で以て第4小節の半終止にもっていく。第4小節目のソプラノは第3音であるので完全終止としてあつかってはならない。もし完全終止として演奏すれば音楽は止まってしまい全てを台無しにしてしまうからである。歌声部の歌い方について論じてみよう。前半部分はレツィタティーフ調であるのであくまでドイツ語を前面に出し喋るように歌う。相手に(彼女に)話し掛けるように能動的に音楽も前に進める。もちろん話し掛け方はおおらかにではなく個人的に、そして不安を感じて演奏するべきである。声質は細く明るく内面的に響きだけでつぶやくように歌いたい。ピアノパートは歌声部にそっと寄り添っているだけなのでテンポ感も自力にて保持しなけ

ればならない。特に第1節は顕著にその性格が出ている。符点4分音符はともすると長くなりがちなので注意が必要である。〔譜例3・○印〕ここに付いている音程やリズムはあくまでもドイツ語と共に昇華されるべきものであるのでメロディックに歌いすぎてはいけない。第10、11小節目の間奏は〔譜例4〕それまでのメロディーのエコーであり後述するカノンの予感であるので、大切に印象的に演奏したい。第1節後半、第16小節からは急にメロディックな旋律の登場である。歌詞は‘それならば僕は再びここを去らなければならない。’と歌っている。明るい細い声で哀しげに、この意味合いを理解するためにはそれなりの研究と実績を積み重ねた演奏家のみが理解できる事であろう。そして決して重く暗く歌ってはならない。ピアノパートをみてみよう。〔譜例5〕左手の3連音符の波に乗って音楽は進められる。ソプラノのメロディーは歌声部のメロディーを正確に追っている。このカノンはとても美しく純真な若者の心を映している部分であろう。実際にはピアノパートが3声部あり歌声部を加えらるとははっきりとした4声部になっている。もちろんカノンのパートを重視しながら4声を明確に柔らかく演奏したい。この部分はまさに声とピアノの一体化であろう。歌手は各節を歌う時には常にその節の最後のフレーズを考えながら歌うべきである。それは常に次の節を歌うエネルギーにつながっていく。各節の後奏に当たる部分〔譜例6〕は第10、11小節と同様の扱いである。しかしここではカノンの予感でなくカノンの終止部分に当たっている。ここで実際の楽譜について前述しているシューベルトに自筆のコピーの部分について同様な場所を2ヶ所あげてみよう。第17小節の3拍目〔譜例7〕と、第19小節の3拍目から第21小節まで〔譜例8〕となっている。シューベルトの楽譜は死後兄によって出版された時にいろいろ不明瞭な部分が生じてきた。どちらが正しいとは言いがたいのである。基本的には自筆譜のコピーでの演奏は少ない。では各節の歌い方について述べよう。第1節はこの曲全体を支配している解釈で前述しているように個人的にそして不安を感じてつぶやく様に歌う。第2節の前半部分は慎ましやかにPで、後半部分は *Ihr blauen Morgensterne* (彼女の碧い目を明け

の明星の様に輝かせておくれ)と歌っている。若者の彼女に対する賛美である。最高の憧れをもって *mf* で歌う。第 19 小節の 2 拍目の符点音符は (譜例 5・19 小節の 2 拍目) ピアノパートの 3 連音符に合わせて歌う。〔譜例 9〕この場合は音楽の柔らかさを重視したためである。第 3 節はひそ

かに *p* で歌う。第 19 小節の 2 拍目は第 2 節と同様の扱いである。第 4 節の前半部分は *mf* で朗々と、しかし決して強くなく神の加護による美しい朝を歌い上げる。しかし後半部分、この節に関しては第 12 小節から悲しげに若者の恋心をうったえ、失意のもとで曲を閉じたい。

〔譜例 1〕

Example 1 is a piano score for four measures. The music is in 3/4 time and begins with a piano (*p*) dynamic. The first measure is marked with a '1' above it. The second measure has a circled '1' above it. The third measure has a circled '2' above it. The fourth measure has a '4' above it. The score shows a melodic line in the right hand and a harmonic accompaniment in the left hand.

〔譜例 2〕

Example 2 is a piano score for four measures, similar to Example 1. It is in 3/4 time and starts with a piano (*p*) dynamic. The first measure is marked with a '1', the second with a circled '1', the third with a circled '2', and the fourth with a '4'. The melodic and harmonic lines are similar to those in Example 1.

〔譜例 3〕

Example 3 is a vocal score for two lines of German lyrics. The first line contains measures 5, 6, and 7. The second line contains measures 8, 9, and 10. The lyrics are: "1. Gu - ten Mor - gen, schö - ne Mül - le - rin! wo steckst du gleich das 1. Köpf - chen hin, als wär dir was ge - sche - hen?". The score includes a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 3/4 time signature. Circled numbers 5, 6, 7, 8, 9, and 10 are placed above the notes. Measure 9 has a circled '3' above it. The lyrics are written below the notes.

シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」(3)

[譜例 4]

11

Musical score for Example 4, measures 10 and 11. The score is in treble and bass clefs. Measure 10 features a triplet of eighth notes in the right hand and a quarter note in the left hand. Measure 11 features a half note chord in the right hand and a quarter note in the left hand.

[譜例 5]

16 17 18

So muß ich wie - der ge - hen, so muß ich wie - der

19 20

ge - hen, wie - der ge - - - hen.

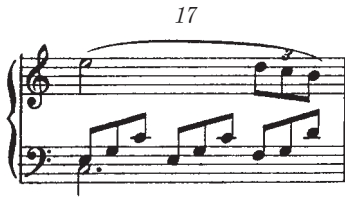
Musical score for Example 5, measures 16 through 20. The score includes a vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: "So muß ich wie - der ge - hen, so muß ich wie - der ge - hen, wie - der ge - - - hen." The piano accompaniment features triplet patterns in the right hand and a steady eighth-note pattern in the left hand. The dynamic marking *pp* is present in measure 16.

[譜例 6]

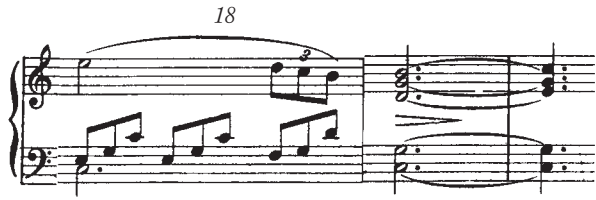
22 23

Musical score for Example 6, measures 22 and 23. The score is in treble and bass clefs. Measure 22 features a triplet of eighth notes in the right hand and a quarter note in the left hand. Measure 23 features a half note chord in the right hand and a quarter note in the left hand.

〔譜例 7〕



〔譜例 8〕



〔譜例 9〕

17 18 19 3

2. ster - ne ihr blau - - en Mor - gen - ster - ne, ihr Mor - gen -
 8. Won - ne, nach ih - - rer stil - len Won - ne, nach ih - rer

9. 粉屋の花

第 7、8 曲に続いて 4 節を有する有節歌曲である。前曲でも述べているが同メロディーを 4 回も繰り返し演奏し続けることは歌手にとってもピアニストにとっても大変な負担である。この第 9 曲で 4 節の有節歌曲は 3 曲続いている。歌手にとっては物理的な問題であるがこの 3 曲の暗譜はこの歌曲集が始まって最初の試練となるであることは明白である。曲は若者は小川の岸で見つけた花を娘の窓に植え、自分の心を伝えようとするといった内容を歌っている。速度表示は MaBig (ほどよい速さで) となっている。この速度表示も前曲と同じである。しかし拍子が 4 分の 3 拍子から 8 分の 6 拍子に変化しているので演奏上全く違った美しさを聴衆に提示出来るであろう。具体的には ♩ = 64 位であろう。この曲は日本人の不得意と

する 8 分の 6 拍子であるためテンポに関して特に注意を払わなければならない。前述しているように声種によってもテンポの枠はさまざまであるが、曲自体あまりの美しさなので歌手はより音楽的に演奏しようとテンポを遅めに設定しやすい。そして 4 節を歌い通す間にはさらに遅くなっていく現象が起こりやすいのである。この曲の耳障りはとてもよく民謡調で簡単であると思われがちである。しかし歌声部の音程は一様に跳躍をしておりテクニク的にもかなりの技術を要する。声にはファルセットを多く混ぜ柔軟な声質で歌いたい。ピアノパートの難しさは一貫して小川であることを強調しなければならない。ピアノパート全体がかなりの低音域で構成されている。メロディー線とピアノパートは常に 1 オクターブ前後の隔たりを保ちながら進められている。ここに大きな問題が起

こるのである。つまりメロディーとピアノパートの分離が起こるのである。これを克服するためには歌手は前述したようにファルセットのよく混ざった響きのある明るい細い声で演奏し、ピアニストは特に響きを強く、やはり明るい細い音で演奏したい。ピアノパートが1オクターブ高く響くような印象を聴衆に与えられれば声との融合も成功である。もちろんメロディーは若者の気持ちを歌っているのであるがピアノパートの小川の一番表面のきらめき部分としても考えられる。そうすれば聴衆は歌とピアノとの一体感を他の曲と同様に味わうことが出来るであろう。では具体的に演奏方法を述べてみたい。まず8分の6拍子を正確に歌いたい。第1、4拍を重く演奏する。1小節をSchwer leicht leicht(重く 軽く 軽く)を正確に2回繰り返すのである。日本人にとってこの様な基本的なリズムは軽視しがちであるが以外に出来ていない様である。実際に演奏となれば思うにまかせない事は演奏家であれば認識しているはずなのだが。では前奏部分から述べてみよう。かなり低い音域から始まっている。けっして暗く演奏してはいけない。小川であるから大河のように大げさに演奏することも避けなければならない。最初の左手の音は小川の最深部であろう。このバスの動きは曲全体を常に支配しているのだが大げさに弾いてはいけない。響きで全てを包むごとくに演奏したい。ピアノパートの右手のメロディーは矢印方向に気持ち速め第3小節の第1拍目の音を頂点として(○印)第6小節の前奏の終わりに向かい力を抜いた低さを感じさせない音色で一気に弾きたい。○印の部分では音を押しえたり落としたりすることは厳禁である。あくまで動きのある軽い音で弾く。第5、6小節は小川の平穏のさざ波であるのでテンポの中でたゆたう。(r---r)第6小節目のフェルマータはシューベルト独特のフェルマータで音楽的に考えても不自然である。シューベルトの作品ではしばしば使われているのだが本来は不適切である。実際的には〔譜例1〕の様に作曲されるべきであろう。でなければこのフェルマータによって小川の流れをせき止めてしまうことになるからである。以前、歌曲集「冬の旅」の演奏と解釈でも述べている。その時の例の作品は‘鱒’であった。音楽の内容も曲の状態も

全く同様である。この歌曲集の第1曲「さすらい」も同様である。しかし実際にはフェルマータは存在しているのでそれに対する処置は施さなければならない。ピアノはフェルマータに入る直前に少しテンポを緩める。フェルマータの拍のソプラノは第3音で止まっているので終止した様な演奏は駄目である。これは第8曲の前奏と同様なパターンである。第8曲の項ですでに述べている。つまり長く伸ばしすぎないことである。ピアニストは打鍵している時間と手を鍵盤から離し響きだけを残し、その響きで音の衰退を計らなければならない。ここもピアニストの音楽性の聴かせどころとなろう。歌はその響きが完全になくなった直後から歌いだす。歌声部のフレーズの始まりはかなり高音から歌い出している。(◎印) 前述しているようにその旋律線はかなりの跳躍である。歌い出しのE(ミ音)はファルセットのみで歌い出し少しの地声を混ぜ Mezza Voce(半分の声)にもっていき滑らかに響きのみで歌い出す。声のポジションは常にE音に置きそれより低音は薄く明るく落ちない声で歌わなければならない。第10小節目は歌声部とピアノパートがユニゾンになっている。(――) ピアノパートの上声部はなくとも音楽には影響を与えないので歌声部より目立たないように柔らかに演奏する。第13、14小節は小川に小さな波が立ったように揺れて歌うと次のピアノパートが弾き易くなるであろう。(――) なぜならピアノパートは前小節と同じ音型で引き継がれている。同じように揺れて第16小節に音楽は引き継がれていく。なんと美しい印象的なメロディーであろう。同じフレーズが2度繰り返されているのだがそれが美しさと悲しさを倍増している。最初のフレーズはppで歌いだし第18小節のアクセントによってクレッシェンドが始まり柔らかく膨らませてフレーズを閉じる。フレーズは若者の心情をうたえるように歌うべきである。ピアノパートの最後の小節のフェルマータは長くないように気を付けたい。カウントした方が確実に安定すると思う。そして次の間奏に入るときはフェルマータの音の響きが完全になくなってから弾きはじめる。

Mäßig. 1

7

1. Am Bach viel klei - ne Blu - men stehn, aus hel - len, blau - en Au - gen sehn; der
 2. Dicht un - ter ih - rem Fen - ster - lein, da will ich pflanzen die Blu - men ein; da
 3. Und wenn sie tät die Äuglein zu und schläft in sü - ßer, sü - ßer Ruh, dann

11

1. Bach, der ist_ des Mül - lers Freund und hell - blau Lieb - chens Au - ge scheidt,
 2. ruft ihr zu, _ wenn al - les schweigt, wenn sich ihr Haupt zum Schlummer neigt,
 3. lis - pelt als_ ein Traum - ge - sicht ihr zu: Ver - giß, ver - giß mein nicht!

15

1. drum sind es mei - ne Blu - men, drum sind es
 2. ihr wißt ja, was ich mei - ne, ihr wißt ja,
 3. Das ist es, was ich mei - ne, das ist_ es,

pp *cresc.*

19

1. mei - ne Blu - - men.
2. was ich mei - - ne.
3. was ich mei - - ne.

[譜例 1]

7

5 6 Am Bach viel klei - ne

pp

The Schubert Song Cycles "Die Schöne Müllerin" Vol. 3 — Performance and Interpretation for the Singer and Pianist —

Nonogaki, Fumishige*

声楽の分野では演奏が全てである。その演奏の助けとして歌手とピアニストの為の演奏法の解釈、分析が必要であり、重要となってくる。現在、声楽の分野ではそのような文献がまだ不十分である。特にその中でもドイツ歌曲の分野では世界で最も優れている詩人の作品に作曲家が曲をつけていることでもよく知られている。今回はシューベルトの三大歌曲のひとつ、歌曲集「美しき水車小屋の娘」全曲をとりあげた。自分自身ドイツ歌曲専門の歌手であるため、ドイツの最高芸術作品であるドイツ歌曲の演奏法と解釈に注目している。今回は 20 曲中の第 7～9 曲までを発表した。

キーワード：シューベルト，ヴィルヘルム・ミュラー，美しき水車小屋の娘，歌曲集